

YAMAHA Marine News

2007 No.162

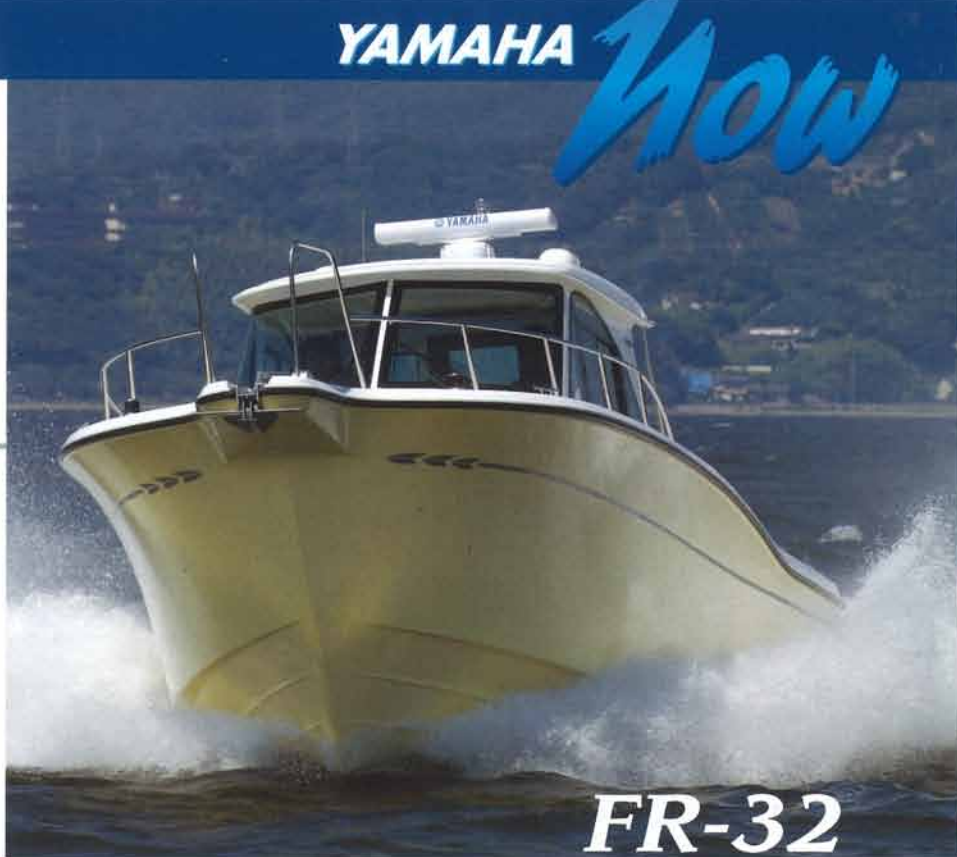


**YAMAHA Now: マリンユーザーを魅了する
YAMAHA 2008 New Model Debut!**

特集: 2008ヤマハニューボート&ニューマリンジェット試乗会レポート

を魅了する 2008 Debut!

これまでのフィッシングタイプとは異なるプロフィールを搭載したMJ-FX CRUISER SHOは、ニューモデルです。今回のマリニュースでは、ニューモデルの感想をお伝えします。



FR-32

■主要諸元 ()はEX仕様 ●全長:10.4m●全幅:3.18m●全深さ:2.03m●完成重量:4,455 (4,570)kg●搭載エンジン:ヤマハMD730×1基●最大搭載馬力:250.1kW/340ps●燃料タンク容量:500ℓ●定員:12名●総トン数:5.6トン●航行区域:限定沿海/沿海

アメリカ東海岸のロブスターボートの雰囲気を漂わせる独特の外観や、これまでのフィッシングボートの常識を覆すほどの空間を確保したキャビンなど、多くのお客様の要望を取り入れて登場した「FR-32」は、従来のフィッシングボートの機能優先とは一線を画すニューモデルです。



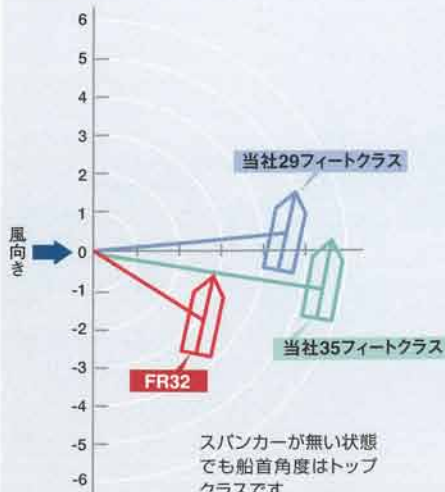
セミウォークアラウンドタイプ。アフトデッキ面積やサイド通路はFG35と同等のスペースを確保



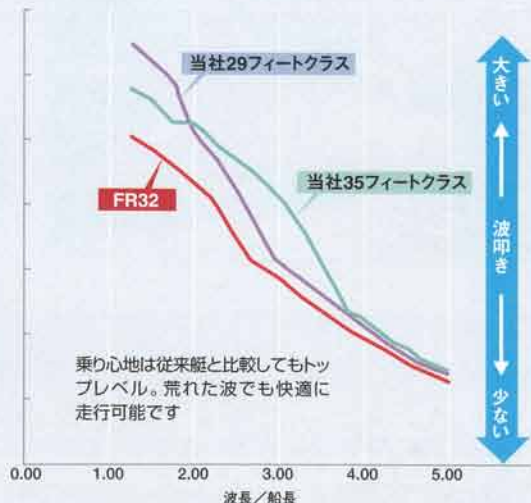
エアダンパー付きのシートをドライバーズシートとナビシートに採用。また6人がゆったり座れるスペースやパウバースには3人が寛ぐことのできる空間を確保しています



■ 風流れ比較



■ 縦衝撃度



主な機能

- 新設計のV型ハルはワイドフレア、コース・スタビライズド・キールなどの採用により外洋での乗り心地を大幅に向上。
- 傾斜角を少なくしたフロントガラスと緩やかなカーブを描くサイドウインドーにより優れた視界と採光性を実現。
- トップクラスの風流れ抑止性能を実現。スパンカーを装備することで、高度な流し釣りが可能

※上記はシミュレーション比較です。実際とは異なる場合があります

マリユーザー YAMAHA New Model

満を持して登場したヤマハ2008年ニューモデル。ルを持つFR-32やスーパーチャージャーエンジンをルならではの性能と個性そして話題性を兼ね備えての紹介と、先頃開催された新艇発表会での販売店様



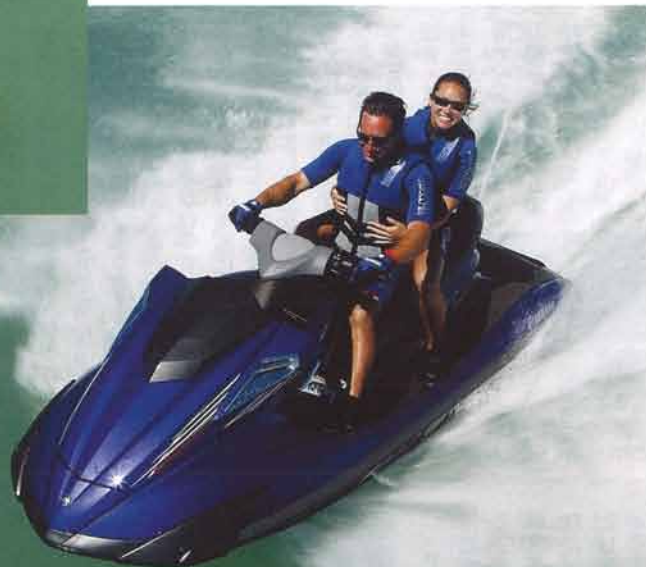
MJ-FX CRUISER SHO

■主要諸元 ()はMJ-FX SHO ●全長:3.37m●全幅:1.23m●全高:1.24(1.16)m●乾燥質量:381(376)kg●定員:3名●燃料タンク容量:70ℓ●オイル容量:4.3ℓ●排気量:1,812cm³●呼称最大馬力:154.5kW<210ps>/7,500rpm●エンジン:4ストローク4気筒DOHC4バルブ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域

メーカー希望小売価格: MJ-FX Cruiser SHO: 2,147,460円
MJ-FX SHO: 2,059,260円

●2008年3月発売予定

210馬力の出力を発揮する新エンジンはスーパーチャージャーを搭載しながらも、軽量・コンパクトを実現。“ナノ・テクノロジー”によって開発された新素材「ナノエクセル(NanoXcel)」を採用した軽量・高剛性ハルとの組み合わせにより、優れた走行性能と乗り心地、燃料経済性を高いレベルで達成しています。



MJ-FX SHO

主な機能

長距離クルージングやトーイング時の微妙なスロットル操作を解消して任意のスピードを維持できる「クルーズアシスト」機能や低速航行を可能とした「ノーウェイモード」、リバース時に適正な回転数にエンジンを制御する「リバーストラクションコントロール」を搭載。無鉛レギュラーガソリンを指定とするスーパーチャージャーエンジンは、210馬力の高出力と優れた出力特性を発揮します。また、ライディングスタイルに合わせて調整可能な「アジャスタブル・チルト・ステアリング」や走行時のマシンの姿勢を制御する「Q.S.T.S.」などを標準装備として快適性を高めました。環境対応の面では、EPA2006(米国環境庁)規制値や、世界でもっとも厳しいと言われる米国カリフォルニア州大気資源局(CARB)の2008年度規制値(スリースター)に適合しています。



1,812cm³、直列4気筒、DOHC4バルブ、スーパーチャージャー付きPWC専用4ストロークエンジン。スーパーチャージャーユニットは、小型で静粛性が高い遠心式を採用。当初からスーパーチャージャーの搭載を前提に開発したことで、PWCのエンジンに求められる軽量・コンパクトを実現したほか、無鉛レギュラーガソリン指定ながら210馬力という高出力、優れた出力特性を発揮します。



高い強度と、平滑で美しい塗装面を併せ持ち、マリジエットの艇体材料として使用されるSMC工法によって作られた不融ポリエステル樹脂に“ナノ・テクノロジー”を採用し、改良を重ねた結果、従来比で約25%の軽量化を達成した新素材「ナノエクセル(NanoXcel)」の開発に成功。これにより走行時のトップスピードやパフォーマンスを向上させるとともに、燃料の消費削減を実現しました。

ヤマハニューボート&ニューマリンジェット

ボート、マリンジェット共に2008年のラインナップが出揃い、販売店様向けの試乗会の後、全国各地で試乗会が行われた。今回は試乗会場で聞かれた率直な感想をレポート。またマリンジェットはワールドビジネスミーティングの様をお伝えします。



FR32への熱い期待と 流し釣りを快適にサポートする フィッシングサポートリモコン

去る8月28、29の両日、2008ヤマハ新艇発表会が大阪府のいずみさの関空マリナーにて開催された。新艇発表会当日は北海道から九州の販売店様が集い、ニューモデルのFR32、SC30に試乗。また流し釣りを快適にするフィッシングサポートリモコンを搭載したアウトボードモデル、インボードモデルの試乗が行われ、それぞれの販売店様は十分な手応えを感じられていた。

その後全国各地で、ニューモデルの試乗会が行われた。今回は中部と九州会場に足を運び、マリンユーザーと各販売店様の率直な感想を伺った。

FR32を待望のニューモデルとして期待するくろしおの鈴木さんは、「釣りの機能を損なわずに居住性を高めた所にこのボートの長所があると思う。UF29やFG35といったフィッシング系のボートとは、ひと味違うテイストで、代替の方も含め団塊の世代で定年を迎える新規の方にも受け入れられるような雰囲気を持つている。子どもと一緒に乗る。奥さんと一緒に乗る。そう考える新規のお客様様に勧めたいと思う。乗り心地もマイルドだし、海の状況にかかわらずきちんと走るボートなので、私たちの商圏にはベストマッチだ」と早くもその手応えを掴んでいるようです。

ブルーウォーター派の多い首都圏にあって、多くのフィッシングユーザーを抱えるセントラルさんでもFR32を高く評価しています。「UF29やYF27、SF31などの代替ユーザーが主な購入層でプラスアルファの部分で新規のお客様になると思います。FR32はこういう使い方をしたほうが



新規のユーザーを取り込んでいきたいと話すくろしおの鈴木さん

セントラルの石松さんは「ポテンシャルの高いFR-32は必ず受け入れられる」という



「流し釣りのお客様にはフィッシングサポートリモコンを勧めたい」という香川マリンの浅田さん



いい」と自分たちで決めずに、お客様の思う通りに仕上げられるボートという訴求をしていきたい。FG35などが同じ価格帯にありますが、居住性の部分や保管料などで差別化ができるので、お客様からの注目度は高いボートだと思います」（セントラル・石松さん）

流し釣りを楽しむお客様が多い、香川マリンの浅田さんはフィッシングサポートリモコンに確かな手応えを感じたようだ。

「FR32は確かに使い勝手も良く、走りも素直でUF系の代替になるボートだと思えますが、フィッシングサポートリモコンもいい商品だと思える。もの自体は地味なのですが、これは流し釣りをやるお客様にはぜひ勧めたい機能。かゆいところに手が届く。そんな機装のひとつなので、試乗会などで多くのお客様に知らせていきたいと思っています」

ニューモデルフェア（中部会場） フィッシングサポートリモコンに 注目が集まる

「ヤマハマリンセンターラゲーナ」（愛知県蒲郡市）のオープニングイベントの一環として「2008ヤマハボート・ニューモデルフェア」がラグナマリナーにて9月9、10日に開催された。FR32、SC30、Y32コンバーチブル、LUXAIRと、フィッシングサポートリモコンを搭載したYF23EX、UF29I/Bが

試乗艇として用意され、オーナーから一般の来場者までさまざまな客層が見受けられた。試乗会場でインプレッションを伺った。

福井県で釣りを楽しんでいる福島さんのお目当てはFR32。他社艇のオーナーでもあるだけに、発売を知ると同時にFR32への興味が湧いたという。

「自分の船と比べてどんなもんかなあ、と思って乗りに来ました。全体的に舷が高く安心感がありますね。幅も広くて、走っていても安心感のあるいいボートだと思います」（福島さん）

石川県からお越しの五十嵐さんは、「フィッシングボートはデッキの広さがあるんだけど、キャビンが小さい船ばかり。でもキャビンはあれくらいあっていいと思う。あれだけの居住性があれば、ファミリーで使うこともできるしね。あと、旋回時のバンクが少なくて、安定して走れる印象を受けました」（五十嵐さん）

フィッシングサポートリモコンがお目当てだったという近藤さんは、高校時代からボートに乗り始め、現在はUF25で浜名湖を中心に釣りを楽しんでいるとのこと。

「いや、あそこまで完璧に止まってくれるとは思いませんでした。今日のコンディション（4.5m/s）なら、全く問題なし。まるでアンカーを打っているのかというくらい、同じ場所に留まってるんですね。一人で釣りに出ることはありませんけど、あれがあれば本当にラクですよ。ちょっとビックリしました」（近藤さん）



フィッシングサポートリモコンに目を見張った大川さん。「ボートフィッシングには欠かせない機装ですよ」と驚きを隠せない様子

10月にボート免許を取得する予定の息子さんと共に試乗に来た大川さん親子は、フィッシングサポーターリモコンのことはまったく知らずに試乗艇で体験した。

「ボートの試乗に来たんですけど、すごい装備があるんですねえ。(スロットル)レバーをメモリに合わせるだけで、あとは何もしなくてもずっと同じ場所に止まっていることができるんですね。あれがあれば、ますます釣りに専念できますよね(大川さん)」

FR-32を目当てに試乗する姿が多く見受けられた試乗会だが、現有のフィッシングボートのオーナーを中心に試乗者の心を奪ったのはフィッシングサポーターリモコンのようで、口々に「あれはいい。ぜひ取り入れたい艦装のひとつ」と声を揃えていた。

九州地区でも ニューモデルに熱い視線

九州地区のニューモデルフェアが9月29、30日、福岡のフォーターフロント・マリノアにて開催された。フェア当日には九州地区の販売店様やお客様が集まりニューモデルFR-32やSC-30の試乗が行われ、棧橋ではシースタイル会員を対象にしたGPS講習会などが行われた。



代替層はもとより新規需要を拡大していきたいと話す桑田さん



FR-32を目当てに来場された大宮さん「これぐらいのボリュームだったら一年中釣りが楽しめそうだ」



「キャビンの心地よさと操船の快適性、釣りの機能。トータルバランスに優れている」と印象を述べる大神さん



沖縄の市場に導入して、フィッシングユーザーを活性化させたいという永山さん

しいボートで新規のお客様を開拓していきたい。それができるだけのポテンシャルはあると思います」と新規ユーザー開拓への抱負を語る。

いつもは仲間と22フィートのボートで釣りを楽しんでいる大宮さんは熱心にFR-32を見学。「キャビンが広い、シートレイアウトも変更できるので、4、5人で外海に出るような釣りにはもってこいのボート。スピードも遅くないし、話によれば、多少の波でもきちんと走るようなので、一年中海に出るような我々のスタイルにはぴったりです」と好感を持ったようだ。また同じくFR-32に試乗されていた大神さんはUF-30のオーナー。すでにボートも8隻目とベテラン中のベテラン。「最初はキャビンが大きいという印象でしたが、操船すると直線でもカーブも素直に走ってくれる。取り回し自体はUF-30とそれほど変わらないから大きさの分だけ良くなったのでしょね。あと舵利きの反応も早かった。後ろのデッキの広さも十分なので、4、5人の釣りだったら大いに楽しめる船だと思つた。値段を気にしなくていいなら、欲しいボートの筆頭ですね」と新規の購入意欲が高まったと笑顔で話す。

沖繩のマリン市場をリードする総合マリン沖繩の永山貢さんは居住性の高いFR-32の市場導入を計画しています。

「沖繩のフィッシングユーザーは30フィートより上のクラスは、FGやYDなどの漁船モデルに代替するのがセオリーなのですが、このFR-32は、そうした漁船タイプとは異

なるフィッシングボート。漁船ベースとは対極となるフィッシングボートなので、キャビンのあるフィッシングボートを持ちたいお客様にはぴったりではないでしょうか」と総合マリン沖繩さんにとってもラインアップを拡充する期待の新艇として位置づけていた。

乗と撮影会が行われ、アメリカを始め、フランス、ロシア、クロアチア、イタリア、ドイツなどのディーラースタッフやメディアの記者が参加。

「すばらしいニューモデルだ。エンジンがすばらしい。ハルも軽い上に剛性がある。本当に見事なモデルだ(フランス)ジェットニュース誌や、「ターニン」するときのレスポンスがすごい(スペイン)のH2Oジェットスキーマガジン社)などニューモデルに対して最高の評価が相次いだ。

日本から参加した11社の販売店様からは、「スピードメーターは60マイルも出ているのに、それを感じさせない安定感がある。走っているときも艇体の軽さとともに堅さを感じさせる、

ヤマハウォータークラフト 2008年ワールドビジネスミーティング

開催日 2007年8月23、25日
会場 USA デステイン/フロリダ
(サンタステインゴルフ&ビーチリゾート)

ヤマハ発動機は、2007年8月23日から25日にかけてマリンジェット(ウェーブランナー)の2008年ニューモデルの発表会を、アメリカの東海岸、フロリダ州デステインで実施した。今年も2008年ニューモデルの「MJ-FXCruiser SHO」やナノエクセルによる超軽量のハルを採用した「MJ-SUPERJET」などが登場し、例年以上に活況を呈した発表会となった。

波を切るときにもとても安心感がある。自信をもって奨めることができる」、また新規機能のノーウェイクモードには、「マリナー近辺等、引き波禁止水域を通過する時にはとても便利な機能」、クルーズアシストには「はじめに3000回転で走り、海面がフラットなでもう少しスピードアップしたのでボタンを押すとさらに回転が上がって、好みのところまで決定できる。クルージングやウェイクボードをする時に、波の大きさや向きなど常に変わるなかで、その状況にあったスピードで安定して走れる」との評価でした。

「新しいハルカラーも話題になりそう。人気を集めると思う」と参加者は、2008年モデルへの手応えを感じ取っていました。

取材協力 Y.M.U.S. ウォータークラフトビジネス
オペレーション商品企画/松本千宏氏

8月24日にはマスコミ説明会、25日には試乗と撮影会が行われ、アメリカを始め、フランス、ロシア、クロアチア、イタリア、ドイツなどのディーラースタッフやメディアの記者が参加。

「すばらしいニューモデルだ。エンジンがすばらしい。ハルも軽い上に剛性がある。本当に見事なモデルだ(フランス)ジェットニュース誌や、「ターニン」するときのレスポンスがすごい(スペイン)のH2Oジェットスキーマガジン社)などニューモデルに対して最高の評価が相次いだ。

日本から参加した11社の販売店様からは、「スピードメーターは60マイルも出ているのに、それを感じさせない安定感がある。走っているときも艇体の軽さとともに堅さを感じさせる、



2008 YAMAHA MARINE JET LINE-UP

ニューモデルMJ-FX Cruiser SHOを筆頭に、ナノエクセルのハルを採用したMJ-FX Cruiser High Outputや
 新型のハルを採用したMJ-Super Jetなどそれぞれの個性を持つ8モデルがラインナップ。
 マリンジェットユーザーのみならず、マリンファンをも魅了する内容となっています。

MJ-FX Cruiser High Output (マイナーチェンジ)



超軽量のナノエクセルをハル、デッキ、バルクヘッドに採用。軽快で扱いやすく快適な乗り心地を実現しました。

●全長:3.37m ●全幅:1.23m ●全高:1.24m ●乾燥質量:355kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:70ℓ ●呼称最大馬力:104.5kW (142ps) / 10,000rpm ●エンジン:4ストローク4気筒DOHC5バルブ ●排気量:1,052cm³ ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域
 メーカー希望小売価格:1,920,975円
 ■ナノエクセル艇体 ■アジャスタブルチルトステアリング ■Y.E.M.S. ■Y.S.S.S. ■Q.S.T.S.

MJ-VX Cruiser (ニューカラー/グラフィックス)



旋回性と安定性で定評のあるVX船型は、ライダーの身体を的確にホールドするクルーザーシートと相まって快適なクルー징が楽しめます。

●全長:3.22m ●全幅:1.17m ●全高:1.15m ●乾燥質量:323kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●呼称最大馬力:75kW (102ps) / 8,000rpm ●エンジン:4ストローク4気筒DOHC5バルブ ●排気量:1,052cm³ ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域
 メーカー希望小売価格:1,471,680円
 ■Y.E.M.S. ■Y.S.S.S.

MJ-VX DX (ニューカラー/グラフィックス)



世界中でPWCの定番モデルとして支持し続けられ、ビギナーからベテランまでを納得させるポテンシャル。それがMJ-VX DXの特徴です。

●全長:3.22m ●全幅:1.17m ●全高:1.15m ●乾燥質量:322kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●呼称最大馬力:75kW (102ps) / 8,000rpm ●エンジン:4ストローク4気筒DOHC5バルブ ●排気量:1,052cm³ ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域
 メーカー希望小売価格:1,426,530円
 ■Y.E.M.S. ■Y.S.S.S.

MJ-VX (ニューカラー/グラフィックス)



シンプルでありながらPWCの機能と性能を追求し、ヤマハのPWC技術を結実させたベーシックモデルです。

●全長:3.22m ●全幅:1.17m ●全高:1.15m ●乾燥質量:319kg ●定員:3名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●呼称最大馬力:75kW (102ps) / 8,000rpm ●エンジン:4ストローク4気筒DOHC5バルブ ●排気量:1,052cm³ ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域
 メーカー希望小売価格:1,200,780円
 ■Y.E.M.S. ■Y.S.S.S.



MJ-GP1300R (ニューカラー/グラフィックス)

2ストロークエンジンの頂点を極めたMJ-GP1300R。08モデルはハルにブラック、デッキにブルーメタリックを纏い登場します。

●全長:2.93m ●全幅:1.15m ●全高:1.02m ●乾燥質量:297kg ●定員:2名 ●燃料タンク容量:60ℓ ●呼称最大馬力:114.7kW (156ps) / 7,000rpm ●エンジン:2ストローク3気筒 ●排気量:1,297cm³ ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域
 メーカー希望小売価格:1,665,615円
 ■Y.P.P.S. ■Y.S.S.S. ■Y.P.V.S. ■Q.S.T.S. ■Y.A.S. ■Y.E.M.S.



MJ-Super Jet (マイナーチェンジ)

「タフなレースを制するポテンシャル」をキーワードに新開発のハルを搭載。シャープなターンと優れた走行安定性を両立させました。

●全長:2.24m ●全幅:0.68m ●全高:0.66m ●乾燥質量:139kg ●定員:1名 ●燃料タンク容量:18ℓ ●呼称最大馬力:48.5kW (66ps) / 6,250rpm ●エンジン:2ストローク2気筒 ●排気量:701cm³ ●航行区域:水上オートバイ特殊基準航行区域
 メーカー希望小売価格:1,015,728円

※MJ-FX Cruiser SHO/MJ-FX SHOは2頁をご覧ください

08 LINE-UPに 確かな手応え

2008年モデルの販売店様向け試乗会が、9月中旬から下旬にかけて全国の4会場で開催された。特に注目を集めたFX-VX Cruiser SHOには、どの会場でも試乗待ちの列ができ、新しいハルにスーパーチャージャーを搭載したエンジンのフィーリングを入念に確かめる光景が見受けられた。

過激さを感じさせない安定感が魅力

マリンメカニック 今崎真幸さん



「SHOは160の長所を引き伸ばして、ヤマハ好きのユーザーには魅力的な商品として映るのではないのでしょうか? とかくハイパワーなマシンだと、スピード感ばかりに気を取られてしまいトータルバランスというものを忘れがちなのですが、このマシンは波があってもしっかりと操作ができ、癖のない走りをする。ポテンシャルが高い商品であることは間違いない。レギュラーガンソリンというのも強力なセールストークになります」

マリンジェットならではの乗り味が魅力

クアトロ 瀬尾慶裕さん



「新規も代替もヤマハらしさというものを求めて買われるお客様が多いので、その点ではまさにヤマハのフラッグシップとして自信を持って勧めることができる。乗り心地も楽ですし、十分な速さも持ち合わせている。ハンドリングも重すぎず軽すぎず自然な感じで、取り回しも優れています。ツーリング派には必ず人気になるでしょうね」

■データ

- 開 店：2007年9月9日
- スタッフ：3名(うち常駐スタッフ2名)
- 主力商材：30ft前後のクルーザータイプ
- 商 圏：愛知県全域

ニューカマーを貪欲に取り込みつつ 東海地区の新たなトレンドを 生み出していく



店舗前には試乗会などができる桟橋を設置している



テラスから直接ボートへアクセスできるのも、このショールームの特徴



展示艇を眺めながら商談できるショールーム



店舗の位置は一般の来場者が多いフェスティバルマーケット/レストランとマリナーハウスのちょうど中間。立地条件も良い

東海地区随の規模を誇る「ラグナマリナー」(愛知県蒲郡市)に隣接する絶好のロケーションに、2007年9月9日「ヤマハマリンセンターラグーナ」がオープンした。運営するのは、ヤマハ発動機(株)100%出資会社の「マリコム東海ラグーナ店」(株)マリコム東海は「マリソピア沼津」や「ヤマハマリナー浜名湖」など、主にマリナーの運営に携わってきた会社で、今回のような販売拠点施設を運営にあたるのは初めて。常駐スタッフは店長の渡辺さんとマリナーカウンター担当の加藤さんの2名。ヤマハマリナー浜名湖を併せた営業統括の杉浦さんが2人の業務をサポートする形をとる。

「直販拠点としての営業が我々の主たる業務となりますが、ヤマハのショールームとして周辺地域の販売店さんにも積極的に利用していただく予定です」と語るのは、店長の渡辺武司さん。

店舗の前には、ヤマハのニューモデルボートを常時展示する予定で、オープン初日には、CR 28-F Bやラクシアなど5艇を展示していた。

「できるだけ色々なボートを展示できるようにしていくつもりですけど、搬入/搬出にもコストがかかりますから、どれくらいのサイクルで展示艇を入れ替えるかは未定です」

店舗のテラスから展示艇のキャビンにそのまま乗り込める造りは、言うなればボートショースタイル。実際に桟橋で目にするような視線で、お客様がボートに接することができるようにとの配慮である。店舗の前面はガラス張り、展示艇を目の前にしながら商談を進めることができる。

「我々は直販ですから、売れるボートを売れば良いというわけではありません。ヤマハの幅広いラインナップをアピールしつつ、新たなトレンドを創り出していけるような商品売っていきたい。その流れができれば、後は地域の販売店さんに任せて、また新たなトレンドを創り出していくというのが理想です」(渡辺店長)



左から渡辺店長、カウンター業務の加藤さん、営業統括の杉浦さん。新たなトレンドを作り出す。そのチームワークも万全の体制を整えている

「オープン初日も、フェスティバルマーケットの館内放送で、試乗会のインフォメーションを流してもらったなど、この立地を生かした一般客へのアピール戦略に余念がない。

「我々は直販ですから、売れるボートを売れば良いというわけではありません。ヤマハの幅広いラインナップをアピールしつつ、新たなトレンドを創り出していけるような商品売っていきたい。その流れができれば、後は地域の販売店さんに任せて、また新たなトレンドを創り出していくというのが理想です」(渡辺店長)

店舗の立地は、レストランやショップが並ぶ「フェスティバルマーケット」と「ラグナマリナー」との中間に位置し、フェスティバルマーケットからは自由にアプローチできるという格好のロケーションである。

「フェスティバルマーケットにいらっしゃる一般のお客様にとっ

今後、月に2回のペースで試乗会を行い、新規顧客を開拓していきたいと抱負を語る渡辺さん。季節を問わず多くの人々で賑わう人気のスポットに位置する拠点だけに、今後の動向が注目される。

当面、主力商品となりそうなのはCR 28やラクシアだが、渡辺店長が力を入れていきたいと考えているのは、Y 32コンバーチブルだ。

「ラグナマリナーはクルーザー系のボートオーナーさんが多いのでラクシアやCR 28といった商品が主力になることが予測できますが、こちらとしてはY 32など1クラス上を提案していきたいと思っています」



フィルム・オン・グラフィックス



デザインと共に購入要素を大きく左右する製品の外装は、制作現場では表面加工技術と呼ばれ、多種多様化が進むユーザーニーズへの対応に追われています。特にモーターサイクルなどの屋外で使用されるものについては、耐候性や耐傷つき性が求められ、家電製品や自動車の内装などでスタンダードとなっている絵柄を印刷したフィルムを用いた表面加工ができず、従来の塗装やグラフィックステープを用いることでしか意匠を表現できませんでした。

そこでヤマハでは、真空加圧成形で特殊フィルムを対象部品に圧着させる“フィルム・オン・グラフィックス”と呼ぶ表面加工技術を開発。

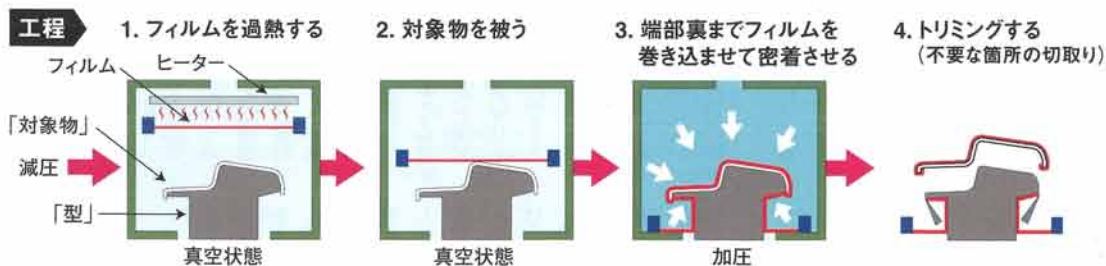
真空加圧成形とは、従来の表面加工のスタンダードな手法となっている真空成形法による外装の着色方法を改良し、真空状態の中で適温に加熱したフィルムを対象物に被せると同時に加圧状態にすることで圧着させ、その後、不要部分をトリミングするだけの加工技術で、フィルムの

温度や加圧タイミング等を制御することにより、曲面にも確実な密着が可能です。

またここで使用するフィルムは耐候性と耐傷つき性を兼ね備えた「表層」、耐衝撃性と耐候性を持ち成形性がよい「中間層」、各種インクを使用し高い意匠表現ができる「印刷層」、対象物との良好な密着性を持つ「接着剤層」の4層からなり、この外装部品用の特殊印刷フィルムと、真空加圧成形技術を組み合わせることで、「3D」や「蓄光」など、これまでの塗装では難しいとされてきた、高精度な着色や模様を持つ外装が可能となりました。さらには従来の塗装で必要とされてきた「脱脂・塗装・乾燥・表面処理・グラフィック貼り」などに比べ、工程数が簡素化でき、派生するVOC(揮発性有機化合物)も大幅に削減できます。

このフィルム・オン・グラフィックスは、二輪車やATVなど屋外で使用する製品の外装部品に幅広く適応できる技術として、今後、各製品への採用を検討しています。

“フィルム・オン・グラフィックス”工程イメージ



ヤマハマリンニュースNo.162 ●発行日/2007年10月15日 ●発行所/ヤマハ発動機株式会社 宣伝部 〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

●製品の情報サイトは www.yamaha-motor.jp/marine/ ●遊びの情報サイトは 21.yamaha.com

この印刷物に掲載する記事等を無断転載・無断使用の事はお断りいたします。

この印刷物は再生紙を使用しています。